

Fender[®]

OWNER'S MANUAL

For Fender[®] Guitars & Bass Guitars



LANGUAGES

Si necesita acceder a los manuales de instrucciones de las guitarras en Español, visite nuestra página web
<http://www.fender.com/support>

Vous trouverez le mode d'emploi des guitares Fender® en français sur le site Internet
<http://www.fender.com/support>

Il manuale d'uso delle Chitarre Fender in Italiano disponibile nel nostro sito web
<http://www.fender.com/support>

Das Fender Bedienungshandbuch für Gitarren in Deutsch, finden Sie auf unserer Website
<http://www.fender.com/support>

Se desejar ler o manual do proprietário Fender para guitarras em português, por favor, visite nosso website em
<http://www.fender.com/support>

日本語のFender® オーナーズ・マニュアルは、弊社のウェブサイトをご参照ください。
<http://www.fender.co.jp>



CONGRATULATIONS

ようこそ、Fender®ファミリーへ!

今のあなたと同じくFender®のギターを手にしたミュージシャンたちが、
半世紀以上に渡る偉大な歴史を築いてきました。

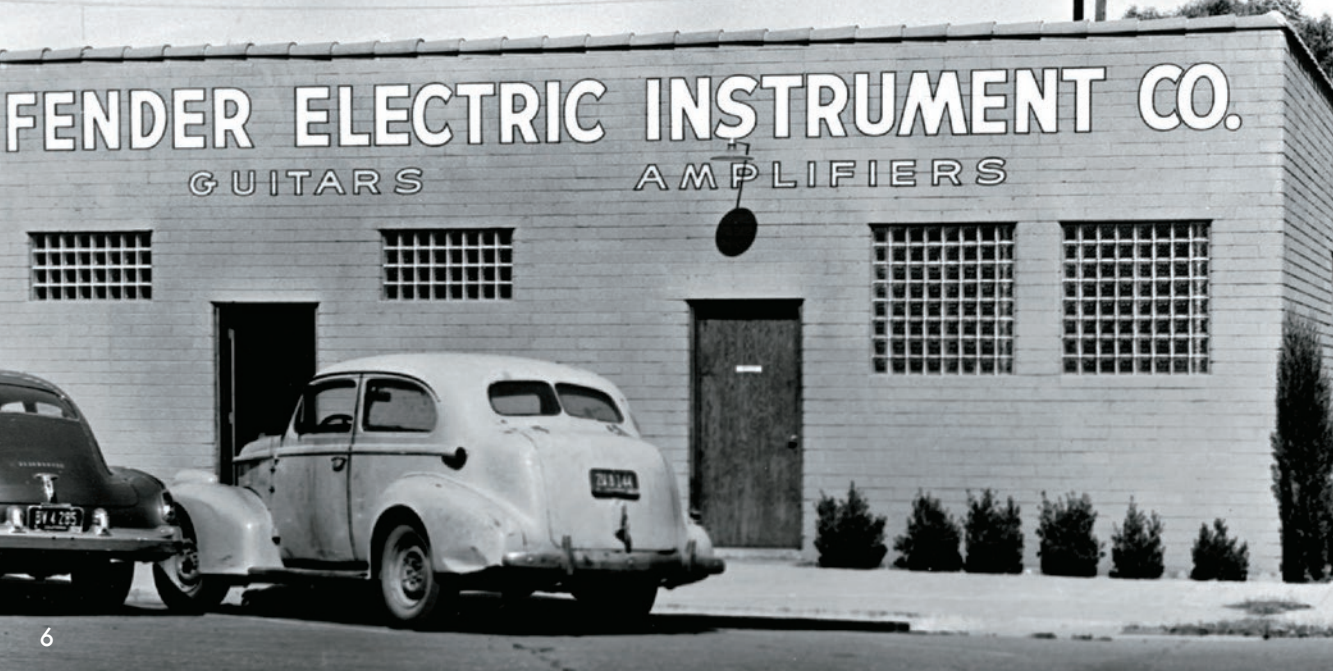
現在あらゆる場所で聴くことができるFender®サウンドが、
それまでにない表現を可能にし、ポピュラー・ミュージックの未来を切り開いてきたのです。

そして、これからはあなたの番です。

楽器を手にし、限らないイメージーションに身をゆだねれば、
あなたの望む場所まで連れて行ってくれるでしょう。

Thank you, and enjoy your new Fender instrument!





SINCE 1946...

Your new Fender® bass guitar holds more than half a century of musical history.

Fender®は、南カリフォルニアの発明家兼ビジネスマンでエレクトロニクスの才能に秀でた、クラレンス・レオニダス・フェンダー(レオ・フェンダー)によって、1946年に設立されました。カリフォルニアのフラートンにあった彼の小さなラジオ修理店で、当時ウェスタン・スウィングバンドで流行していたソリッド・アンプやラップスティールギターを制作しながら、この会社はスタートしました。ロックンロール到来までは、まだ10年も待たなくてはならず、とてもひそやかなスタートだったことは間違いありません。

そんな時期を経て、レオとそのスタッフ達は1950年に初めてソリッド・ボディのスパニッシュスタ

イルのエレキギターTelecaster®(そして、そのシングルピックアップバージョンEsquire®)を制作し、その類い稀な創造の旅をスタートしました。続く1951年、Fender®は世界ではじめて商業的成功を収めたソリッド・ボディのエレキベースPrecisionBass®とBassman®アンプを制作。1952年にはTwin Amp®が登場します。

そして、1954年…Fender®はおそらく最もその名を広く知られ、多大な影響力を持つギターStratocaster®を発表しました。10年とたたないうちに、ロックの偉人たちは、Fender®の設計者達が思いもよらなかったような途轍もないサウンドを、このギターで奏ではじめたのです。

続いて、Jazzmaster®ギター(1958)、Jazz Bass®(1960)、Jaguar®ギター(1962)、そして沢山の優れたアンプを発表し、1965年にCBSに売却される頃には、Fender®はカリフォルニアの駆け出しのギターメーカーから、高い評価を受ける楽器とアンプで世界中の音楽をガラリと変貌させた、確固たる業界のリーダーへと成長を遂げていたのです。

CBSの時代が終わり、現代のFender®が始まった1980年代中頃から、世界中の音楽、ポップ・カルチャーを象徴するブランドとして成長し続け、現在も多くの支持を得ています。

OVER 60 YEARS OF INNOVATION

1946 FENDER® MANUFACTURING COMPANY. EST.



1951 TELECASTER® GUITAR EST.



1951 PRECISION BASS® EST.

1952 BASSMAN® AMPLIFIER EST.

1954 STRATOCASTER® GUITAR EST.



1958 JAZZMASTER® GUITAR EST.



1960 JAZZ BASS® EST.

1961 FENDER REVERB EST.



1962 JAGUAR® GUITAR EST.

1963 TWIN REVERB® AMPLIFIER EST.



1964 MUSTANG® GUITAR EST.



1968 TELECASTER® THINLINE GUITAR EST.

1985 AMERICAN STANDARD GUITARS EST.



1988 ERIC CLAPTON STRATOCASTER® EST.



1987 FENDER CUSTOM SHOP EST.



1997 HOT ROD AMPLIFIERS EST.



1998 MARCUS MILLER JAZZ BASS EST.



2005 G-DEC® AMPLIFIERS EST.



2005 SUPER-SONIC® AMPLIFIERS EST.



2011 KURT COBAIN JAGUAR EST.



2012 FENDER SELECT GUITARS EST.

GENERATIONS OF WORLD-CHANGING MUSIC

機能、コントロール、スペック



お手持ちの特定のモデルの機能や仕様に関する詳細情報、
またお使いのモデルの配線図、スイッチ/コントロールの機能図および部品のリストは
www.fender.co.jpのそれぞれのギターのリンクをご覧ください。

工場出荷時のスペックおよびセットアップについて

お買い上げいただいたギターは最高の材料と熟練した職人の技術によって完成されています。

最終組み立ての一工程として、可能な限り最高の演奏性を実現するために、手作業でFender®の工場出荷スペックに適合した調整およびセットアップを行っています。

ただ、すべての木製楽器と同様、気温や湿度の変化にさらされることで変化が生じる場合があります。これは年月の経過やギターの地理的移動に伴い自然に起こりうる現象です。

どのような場合も、製品のお受け取り時点の演奏性は、下記のような条件に影響を受けていることがあります。

- 最終組み立て後、Fender®から出荷されるまでの期間
- Fender®からの出荷と目的地への到着までの時間
- 発送方法 例)トラック輸送、航空輸送、船
- 輸送中の気象変化
- 輸送先での気象変化
- お買い上げいただくまでのディーラーでの在庫期間
- ディーラーで独自に製品セットアップを行ったかどうか

重要なお知らせ

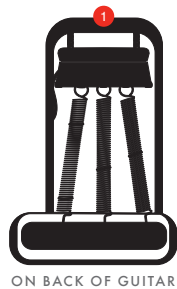
最初にギターを手に取った時、調整の状態が工場出荷スペックと違う場合がありますが、前述のように、リストアップされている要因によるセットアップの変化は自然なことです。

お買い上げいただいたギターには多くの調整可能な箇所があり、最終組み立てからお受け取りいただくまでの間に生じた変化を補正することができます。

例えば、もし弦高がお好みの状態よりも高い/低い場合は、本マニュアルでセットアップの仕方と、ギターの調整およびメンテナンスの方法を解説していますので、演奏コンディションをあなたにとって最適な状態に調整していただけます。もちろん、ご自身での調整が不安な場合は、Fender® Dealerへいつでもご相談ください。

お買い上げ時の初期標準セットアップ、楽器の調整ならびに部品は、販売店の通常製品準備の範囲とみなされ、Fender®の製品保証には含まれていません。製品の受領および受け入れを以て、消費者がすべてのセットアップ、調節およびメンテナンスについての責任を負うものとします。

ギター各部名称



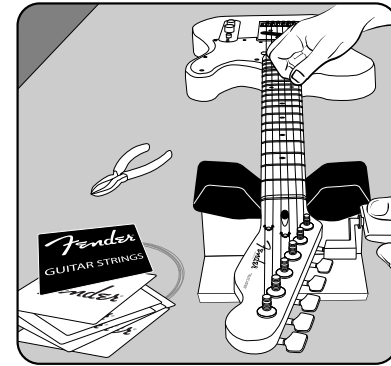
1. トレモロキャビティ
2. ストラップボタン
3. ボディ
4. アウトプットジャック
5. ブリッジ
6. ブリッジサドル
7. トーンコントロール
8. ボリューム
9. ピックアップセレクター
10. トレモロアーム
11. ピックガード
12. ピックアップ
13. ボディ下部
14. ボディ上部
15. ストラップボタン
16. 12フレットマーカ
17. フレット
18. フレットボード
19. ナット
20. トラスロッド
21. スtringガイド
22. ペグ
23. ヘッド

GUITAR MODELS



ギターのセットアップ

注意：工場出荷時の仕様は平均的なもので、セットアップ方法をご案内する目的で記載しております。これが唯一の決まりということではありません。弦高を少し高く、または低くしたい場合はお好みの状態に変更してください。ただし個人の技術や演奏スタイルによっては高い弦高では演奏がしにくく、また低い弦高ではフレットのバズ音が過度に発生する恐れがあります。



ギターを最高のコンディションにするには、まず手元に下記のキットをご用意いただき、次の5つの簡単な手順を行ってください。

- ・ 隙間ゲージ (.002-.025)
- ・ 6インチ定規 (目盛り1/64インチ刻み)と巻き尺
- ・ 六角レンチのセット
- ・ プラスドライバー
- ・ チューナー
- ・ ワイヤークッター
- ・ ワインダー
- ・ ポリッシュと布
- ・ カポタスト



1. 弦の交換

お手持ちのギターを生き返らせるには、弦の交換が一番手早く、簡単で効果的です。弦が古くなり、劣化して汚れた状態を見分けるのは簡単です。鈍くて生気のない音になり、指を弦にそって滑らせるとざらっとした感触がします。弦の交換は難しくありません。



ただしお持ちのFender®ギターのモデルによって、幾通りかの方法があります。弦はボディのブリッジからヘッドのペグにかけて張られています。Fender®のギターはモデルによって多様なブリッジおよびペグを採用している為、それぞれの製品に相応しい弦交換方法を正しく行ってください。

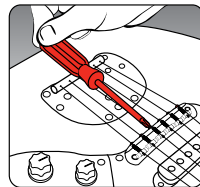
2. セッティングについて

いずれのブリッジタイプにおいても、重要なのはブリッジサドルからの弦の角度が十分(最低でも30度)にあることです。弦高やフローティングトレモロといったブリッジ調整はほぼ個人的な好みによって設定します。

調音には、正確な計測作業が必要で、調音の基本的なプリセットは簡単に行えます。巻き尺を使って、ナットの内側の角から12フレットの中央(フレットワイヤーです。フレットボードではありません)の正確なスケールの長さを計り、その数字を二倍にしたものが、あなたのスケールの長さです。

調音の基本的なプリセットも簡単に行えます。1弦のブリッジサドルを、このスケールの長さ、巻き尺を使ってナットの内側の角からブリッジサドル

中央まで計りながら、調節します。次に、1弦のサドルから2弦サドルまでの距離を、2弦のゲージを利用して計ります。例えば2弦の太さが.011"(0.3 mm)の場合、2弦のサドルを1弦のサドルから.011"(0.3 mm)下げます。3番目のサドルは3弦のゲージを利用して2弦のサドルより下げます。4弦のサドルは2弦のサドルと平行になりますようにします。5番目のサドルと6番目のサドルを、2弦と3弦を利用してセッティングしたのと同じ要領で調節します。

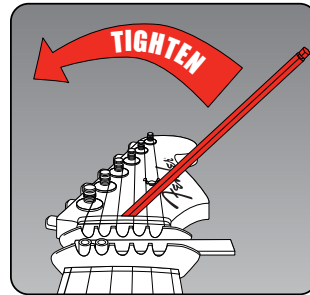


3. トラスロッド調整

トラスロッドはネック内部にある、外からは見えない精巧な装置で、弦のテンションによって屈曲しようとする力に、抵抗する作用があります。理想的に調節されたネックは、弦の振動に適応するため適度な遊び(屈曲)があります。

調節方法は極めてシンプルで、カポを1フレットに装着し、6弦(低いE)の最終フレットを押さえます。その状態で弦の下面から8フレット上面までの距離を計ります。隙間は.010"程度になっている必要があります。加えて、ボディの端からヘッドの方向に向かってネックを見ると、ネックが真っ直ぐか曲がっているかがわかります。

Fender®のギターは2種類のトラスロッド機構を採用しています。1つはヘッドから六角レンチを使って



調整するタイプ、もう一つはネックジョイントからプラスドライバを使って調整するタイプです。両方のタイプで次の作業を行います。

ヘッドからの調節(六角レンチ):

ネックの順反りがひどい場合は(ギターを演奏位にして、ネックをペグの方向に向かって見た状態で)ト

4. 弦高の調整

ラスロッドのナットを反時計回りに回します。逆反りがひどい場合は、時計回りに回します。

ネックジョイントでの調節(プラスドライバー):

ネックの順反りがひどい場合は、ラスロッドのナットを時計回りに回します。逆反りがひどい場合は、反時計回りに回します。チューニングをチェックして、隙間ゲージで再度反り具合をチェックします。これでラスロッド調整は終わりです。

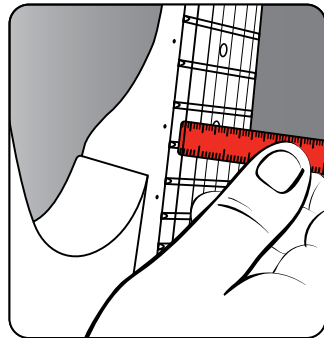
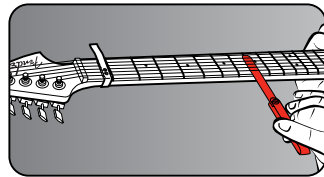
ネックを見下ろしてみたり、隙間をもう一度計って.010"程度であることを確かめてみましょう。もしラスロッドを回す際に強い抵抗を感じる場合、または調整をご自分で行うことがためられる場合は、いつでもFender® Dealerへご相談ください。

この調整は簡単で、数学的な計算よりも、個人的な嗜好がものをいいます。

まずチューニングをチェックし、6インチ定規を使用して各弦の下面と17フレットの上面の間隔をそれぞれ計ります。

その間隔を約4/64インチ(約1.5mm)にしてください。それが推奨の設定ですので、その値に近づくまで各ブリッジサドル(またはサドルがプリセットの場合はブリッジ高調節ねじ)を調節します。

最終的には、お好みによって設定してください。高いE弦で4/64インチが推奨ですが、適宜弾きやすい弦高に設定してください。



5. ピックアップ高の調整

ピックアップのセッティングが高すぎると、さまざまな音質の異状を引き起こすおそれがあります。

適切な高さに設定するには、すべての弦を最後のフレットで押さえた状態で6インチ定規を使い、1弦(高いE弦)と6弦(低いE弦)の底面と、それぞれのポールピース上面との間隔を計ります。ご使用のピックアップによって最適な間隔は変わりますので、表を参考に、外側のピック

PICKUPS	BASS SIDE	TREBLE SIDE
Texas Special™	8/64" (3.6 mm)	6/64" (2.4 mm)
Vintage Style	6/64" (2.4mm)	5/64" (2 mm)
Noiseless™	8/64" (3.6 mm)	6/64" (2.4 mm)
Standard single-coil	5/64" (2mm)	4/64" (1.6 mm)
Humbucking	4/64" (1.6mm)	4/64" (1.6 mm)
Lace Sensor	to preference	to preference

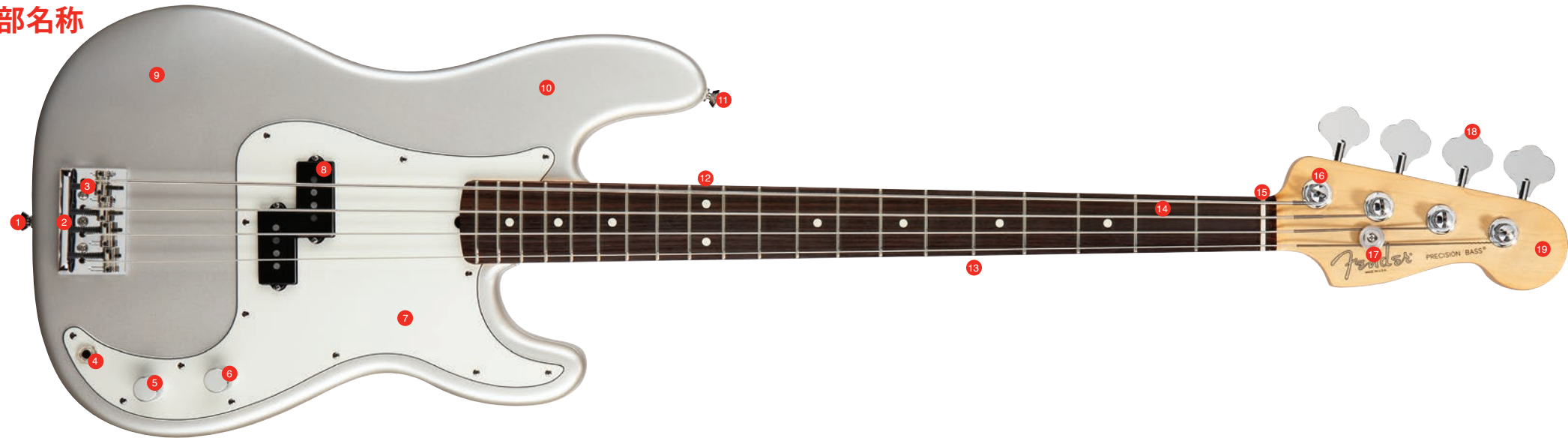
アップマウントねじで間隔を調節してください。

間隔はネックに近いピックアップ位置で、6弦で一番大きくなり、ブリッジピックアップ位置では1弦で一番近くなります。この距離もピックアップの磁力によってさまざまです。

ご要望に応じてチューンを重ね、調整を繰り返して、最適な設定を見つけてください。



ベース各部名称



1. ストラップボタン
2. ブリッジ
3. ブリッジサドル
4. インプットジャック
5. トーンコントロール
6. ボリュームコントロール
7. ピックガード
8. ピックアップ
9. ボディ下部
10. ボディ上部
11. ストラップボタン
12. 12フレットマーカ
13. フレット
14. フレットボード
15. ナット
16. ベグ
17. スtringガイド
18. チューニングノブ
19. ヘッド



ベースのセットアップ

ベースを最高のコンディションにするには、まず手元に下記のキットをご用意いただき、次の5つの簡単な手順を行ってください。

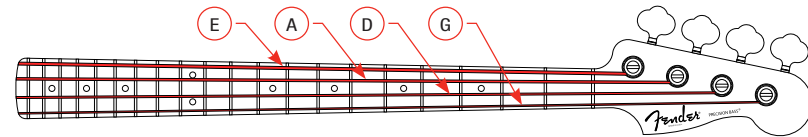
- チューナー
- ワイヤーカッター
- カポタスト
- 隙間ゲージ (.002-.025)
- 6インチ定規 (目盛り1/64インチ刻み)と巻き尺
- サイズの大きいプラスドライバー (Vintage Series basses)、もしくは各ベース付属の六角レンチ (modern basses)
- サイズの小さいマイナスドライバー (Vintage Series basses)、もしくは各ベースに付属しているサドル調整用六角レンチ。(modern basses)

◆チューニング

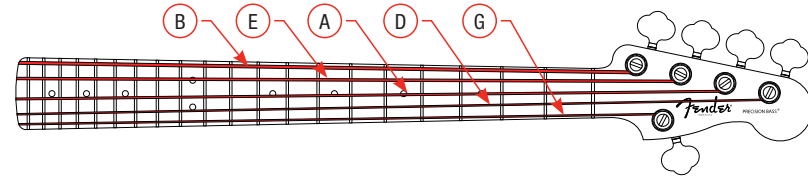
チューナーをお持ちでない場合は、1つ持つておくとも便利です。チューニングの手順を簡単にご説明します。お手持ちのチューナーにプラグインし、ベース本体のヴォリュームを全開にしてください。チューナーが反応しやすいように、解放弦か12フレットのハーモニクスを鳴らしてください。ハーモニクスは、ちょうど弦長の真ん中に当たる12フレット上で、軽く指で触れた状態で弾いて鳴らします。

強く押さえてしまうと音程が狂ったり、音がミュートされてしまいます。少しの練習で、ハーモニクスの鳴らすための軽いタッチができるようになるでしょう。

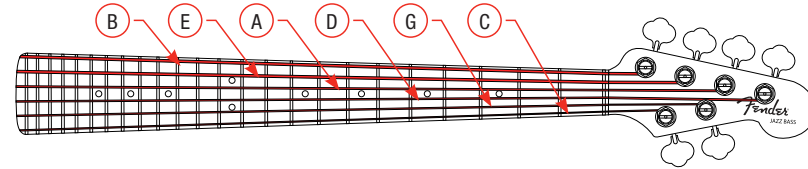
4弦ベースの場合、解放弦で低い方からE、A、D、Gとなります。



5弦ベースの場合、解放弦で低い方からB、E、A、D、Gとなります。



6弦ベースの場合、解放弦で低い方からB、E、A、D、G、Cとなります。



1. 弦交換

新しい弦に交換するだけで、あなたのベースは蘇ることでしょう。チューニングやテンションも安定します。弦交換は、ペグ・ポストに弦を巻き付けるシンプルな作業ですが、わずかに各弦をストレッチしたり、ペグ・ポストに押し込んだりすると、より安定したチューニングを得られます。弦の中央をつまみ上げ、軽く引っ張ったり離したりし、再びチューニングをもどしましょう。結果、チューニングに関するいくつかの不満は解消するでしょう。(Fender®のベース弦は、Fender® Dealerにてお買い求めいただけます。)

まずは弦を各ブリッジに通し、ナットを跨ぎ、それぞれ適正なペグ・ポストまで引っ張り、それぞれ少なくとも3周程度ポストに巻き付けられるだけの長さに合わせ、しるしとします。しるしの3センチほど前から45度に折り曲げ、ワイヤーカッターなどでしるしから向こう側の余計な部分を切り

落とします。(Figure A).

次に弦の端を下に向け、ペグ・ポスト中央の切れ込みに差し込んでいきます。緩んだ弦に片方の手で適度なテンションを掛けながら、もう一方の手でペグを回し、弦を巻いていきます。(Figure B).

その際、巻いている弦が重複しないように、ポストの上から下へと綺麗に巻き付くようにしてください。そうすることで、チューニングの安定性やナットからの適度な角度を確保できます。(Figure C).

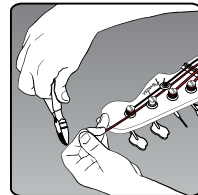


Figure A

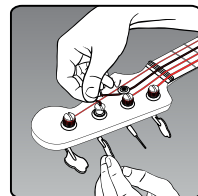


Figure B

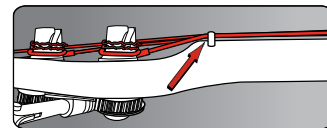


Figure C

2. 電池の交換

Fender®には、バッテリーを使用しないパッシブ・ベースと、電池駆動によるプリアンプを搭載したアクティブ・ベースがあります。アクティブ・ベースでも、電池1個の9Vシステム、電池2個の18Vシステムがあります。

国内オフィシャルサイト (www.fender.co.jp)にて、各製品の仕様をご確認ください。

アクティブ・プリアンプを搭載した全てのFender®製品は、ジャックにプラグインした状態でスイッチがオンになる、電池効率の良い仕様を採用しています。電池の寿命を最大限に生かすため、演奏しない時はケーブルをベースから抜いておきましょう。電池残量が少なくなると、プリアンプへの電力供給が下がり、音割れやノイズが発生いたします。その際は速やかに電池を交換してください。

アクティブ/パッシブの切替えスイッチを搭載していないモデルの電池が切れた場合、パッシブとして使用することはできません。音が完全に出なくなります。電池を2個使用する18Vの場合、2個とも同時に交換してください。

残量が不均衡な組み合わせで使用すると、本来のパフォーマンスを発揮できない場合があります。同じブランド、同じ仕様の組み合わせでの使用がベストです。



3. トラスロッド調整

トラスロッドはネック内部にある、外からは見えない精巧な装置で、弦のテンションによって屈曲しようとする力に、抵抗する作用があります。理想的に調節されたネックは、弦の振動に適応するため適度な遊び（屈曲）があります。Fender®ベースは工場出荷時、7フレット上でフレットと弦の隙間が.012"~.014"に設定されています。

トラスロッド調整を行うには、まず1フレット上にカポを装着してください。一番低い弦（4弦ベースならE弦、5弦ベースならB弦）の最終フレットを押さえ、7フレット上でフレットと弦の感覚を隙間ゲージで測り、.012"から.014"になっている状態がベストです。ボディ下端からヘッドの方向に向かってネックを見ると、ネックが真っ直ぐか曲がっているかがわかります。もしトラスロッドの調整が必要な場合は、適度にチューニ

ングを下げ、ネックに掛かるテンションを緩めてから行いましょう。再び隙間ゲージで測る際は、チューニングを戻すことをお忘れなく。調整するベースがヴィンテージ・タイプの場合には大きめのプラスドライバーかマイナスドライバーが、モダン・タイプ場合には付属の六角レンチが必要になります。ネックヒールから調整するヴィンテージ・タイプの場合、弦を外してネックを取り外すか、あるいは器具がトラスロッド・ナットに届くようにピックガードを外す必要があります。もしネックの順反りがひどい場合は、トラスロッド・ナットを時計回りに回してください。また、逆反りの場合は反時計回りに回してください。チューニングを元に戻し、隙間ゲージで調整具合をチェックしましょう。トラスロッドを回す際に強い抵抗を感じる場合、または調整をご自分で行うことがためられる場合は、いつでもFender® Dealerへご相談ください。

4. 弦高の調整

この調整は簡単で、数学的な計算よりも、個人的な嗜好がものをいいます。まずチューニングをチェックし、6インチ定規を使用して各弦の下面と17フレットの上面の間隔をそれぞれ計ります。その間隔を約4/64インチ(約1.5mm)にしてください。それが推奨の設定ですので、その値に近づくまで各ブリッジサドル（またはサドルがブリセットの場合はブリッジ高調節ねじ）を調節します。最終的には、お好みによって設定してください。高いE弦で4/64インチが推奨ですが、適宜弾きやすい弦高に設定してください。

PICKUP HEIGHT ADJUSTMENT CHART

Pickup Type	Bass Side	Treble Side
Vintage Style Precision Bass®	8/64"	6/64"
Vintage Style Jazz Bass®	8/64"	6/64"
Standard Jazz Bass	7/64"	5/64"
Standard Precision Bass	7/64"	5/64"
American Standard Jazz Bass	7/64"	5/64"
American Standard Precision Bass	7/64"	5/64"
Vintage Noiseless™ Jazz Bass	8/64"	6/64"
N3 Noiseless Jazz Bass	8/64"	6/64"
Special Design Humbucking	7/64"	5/64"

5. オクターブ調整

基本的なオクターブ調整は簡単に行うことが出来ます。チューナーを使用し、12フレットのハーモニクスを鳴らして、各弦の音程を合わせてください。12フレットを押弦した実音と、ハーモニクスの音程を比べてください。もし音程が合っていれば、調整は必要ありません。もし音程が合っていない場合は調整する必要があります。各モデルのブリッジに合ったプラスドライバーや六角レンチが必要になります。実音がハーモニクスより高い場合、サドルのネジを時計方向に回し、音程が合うまでサドルを後方に調節して弦が長くなるようにします。実音がハーモニクスより低い場合、サドルのネジを反時計方向に回し、音程が合うまでサドルを前方に調節して弦が短くなるようにします。度々チューニングを合わせながら調整を行いましょう。



ケアと手入れ

お買い上げいただいたFender®製品は精密かつ丹念に作られており、この先何年にもわたるご満足と喜びをお約束するものです。ここに挙げたお手入れを継続して行っていただくことで、永い年月にわたって外観の美しさと優れた音と演奏性を保ちます。

・**清潔に保つ。** ヨゴレ、ホコリ、汗、皮脂、煙草およびその他粘り気のある物質は、ギターのフィニッシュやハードウェアの経年変化以上の劣化をまねきません。これを防ぐには弦、ネックおよびブリッジを時々不織布で拭きます。フィニッシュ面にはFender®製のポリッシュを使用し金属のパーツは、清潔で柔らかく、乾いた磨き布で拭きます(www.fender.co.jpでこのお手入れに必要な用品をご覧ください)。

・**フレットボードにオイルを塗る。** フィニッシュの施されていない、ローズウッド、エボニー、パーフェローのフレットボードに含まれる天然のオイルは枯渇します。それに起因する乾燥を防ぐために、定期的に

レモンオイル、亜麻仁ボイル油、またはその他の非シリコンベースの木材/家具用オイルで潤してフレットボードを美しく保ちましょう。不織布を使って擦り込み、染みこむのを待ってから、余分な油を拭き取り、少し離して艶を眺めてみてください。

※フィニッシュの施されているフレットボードにはオイルは塗らないでください。メイプルのフレットボードにはフィニッシュ加工が施されている為、オイルは必要ありません。

・**ストラップボタンを締める。** ストラップボタンは時折自然に緩んでしまいます。ストラップボタンをこまめにドライバーで締めてください。

・**調節とセットアップを行う。** ギターを放置して問題が起こる前に、このマニュアルに記載の通り、セットアップと定期調整を行ってください。またはFender® Dealerにご相談ください。

・**極端な気候を避ける。** 極端な温度や湿度によってギターにダメージが生じる場合があります。もしそのような環境を避けられない場合は、ダメージを最小限に抑えるために弦を緩め、フィニッシュにクラックなどの入らないように、冷たい場所にあった楽器は徐々に温かい温度に慣らしてからケースを開けるようにしてください。

・**ラッカー仕上げ。** ラッカーは長年上質の家具や楽器に使用されてきた天然の木材塗装です。プラスチック、合成物質、手術用ゴムチューブ(ギタースタンドやストラップに使用されていることがあります)などに長期間接触し続けることがないようにご注意ください。上述のものはラッカーと反応をし、フィニッシュを損ないます。しかしながらクラック、収縮、退色、早期摩耗は、ラッカーフィニッシュの自然な経年変化でもあるため、Fender®の製品保証の対象ではありません。

保証規定

1. お客様の正常なご使用状態(取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書に従ったご使用状態)のもとで、Fender®、Squier® 製品についてはお買い上げ日から2年間、EVH® 製品についてはお買い上げ日から1年間の保証期間中に発生した製造上の不備に起因した故障の場合、無料にて修理させていただきます。

2. 保証期間中に故障し、修理をお受けになる場合は、製品と保証書と購入時の領収書をご持参ご提示の上、お買い上げのFender® Dealerにご依頼ください。

3. 下記のような場合には、保証期間中でも有料修理、または保証対象外となります。

(1)保証書と購入時の領収書のご提示がない場合。

(2)保証書にモデル名、お買い上げ年月日、および販売店様名の記入の無い場合、または字句を書き替えられた場合。

(3)ご使用上の誤り、他の機器から受けた障害、または不当な修理や改造による故障および損傷。

(4)お買い上げ後の輸送、移動、落下などによる故障や損傷。

(5)火災、地震、風水害、落雷、その他の天災地変、公害、塩害、異常電圧などによる故障および損傷。

(6)温度・湿度等の環境変化に起因すると思われる木部、塗装面等の変化。

(7)ハードケース・ソフトケース・カバー等の付属品類の故障および損傷。

(8)状況の如何を問わず、ネックのヒビや折れまたはキャビネット等の損傷。

(9)フレット、ナット、ブリッジサドル、弦、電池などの消耗部品の交換。

(10)お買い上げ日から90日間以上経過したアンプ製品の真空管に関する故障および損傷。

4. 本製品の故障、またはその使用によって生じた直接、間接の損害について当社はその責任を負わないものとします。

5. 保証書は再発行いたしませんので、大切に保管してください。



Fender®, Bassman®, Twin Reverb®, Super-Sonic®, G-DEC®, Stratocaster®, Strat®, Telecaster®, Tele®, Jaguar®, Jazzmaster®, Mustang®, Precision Bass®, P Bass®, Jazz Bass®, J Bass®, Squier®, フェンダー®, ジャズベース®, プレジジョンベース®, ストラトキャスター®, テレキャスター®, スクワイヤー®, and the distinctive headstock designs commonly found on these guitars are U.S. registered trademarks of Fender Musical Instruments Corporation. All rights reserved.

アクティヴギター使用の際の注意

安全確保の為、電池を使用する製品をご使用の際は次のことにご注意ください。電池及び、電池が入った製品は太陽光線、火気等の過度の熱にはさらさないでください。

電池のセッティング、交換方法を誤ると発火や爆発の可能性あります。交換するときは、説明書または製品上に記載されているものと同じか、同等の電池のみを使用してください。

電池切れ、もしくはインジケーターが点灯しない場合は、速やかに電池を交換してください。

- ⚠ 電池を長持ちさせる為に、演奏しない時はジャックを外すようにしてください。不適切に使用した場合、電池の破裂や液漏れの原因となります。安全のため、次の注意事項を守ってください。
- ⚠ この機器に異物(燃えやすいもの、硬貨、針金など)または液体(水、ジュースなど)を絶対に入れないでください。

- 使用済みの電池と新しい電池を一緒に使用しないでください。また、異なる種類の電池を混合しないようにしてください。
- 電池の取り扱いを誤ると、液漏、発熱、火災、または爆発を引き起こす可能性があります。
- 長期間使用しないときは、電池を本体から取り出しておいてください。
- 電池が液漏れを起こした場合は、柔らかい布やペーパータオルできれいに拭き取り、新しい電池をセッティングしてください。皮膚の炎症を避けるために、電池の液が手や皮膚に付着していないことを確認してください。また、電池液が目に入らないように、細心の注意をしてください。目に入った場合は、すぐに流水で患部をすすいでください。

- 電池はボールペン、ネックレス、ヘアピンなどの金属物体と一緒に保管しないでください。
- 電池を分解したり、水に投げ入れたり、加熱しないでください。
- 電池をセッティングするときに正しい極性であることを確認してください。

安全にご使用いただくために

- ノブやコントロール、ジャックやコネクターを使用する際は、十分な注意をお願いいたします。乱暴な扱いは、破損の原因となる可能性があります。
- 熱を発する機械の近くに機器を置いたり、直射日光にさらしたり、車内に放置したりしないでください。

Fender[®]
www.fender.co.jp

Register your new Fender electric instrument at www.fender.com/prodreg